

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890200425
法人名	医療法人松風会近松内科
事業所名	グループホーム松風園
所在地	今治市上徳乙2 8 4 番地 1
自己評価作成日	平成28年3月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム松風園は入居者の方の「自宅」とあるという認識を持ちそれを判断基準にして運営しています。他人の家では許されないことも、自分の家では許される場合があると考えます。

グループホーム松風園は、ご家族、近隣の方々、職員を含め松風園に関わりを持たれる全ての方の生活の質の向上を意識して運営します。人間を尊重することが目的の福祉事業所である以上、人間の生活を維持する為に、別の人間の生活を犠牲にすることは許されないと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●開設時には内覧会を行い、地元の方や同業者の見学があった。散歩によく出かけており、田畑で作業をする方や登下校中の子供達とあいさつを交わしている。近くの公民館の文化祭へ絵手紙教室に通っている利用者の作品が展示された際には、数名で見に行った。又、餅まきにも参加した。

●隣接する畑の方が、利用者が楽しめるようにコスモスを育ててくれている。又、小学校のグラウンドや保育園の園庭が良く見えて、子ども達の姿や声が日常的に感じられる。職員は、そうじに時間をかけており、清潔に保てるよう心がけている。玄関周りには少し高めの花壇があり、いちごやパンジーを植えていた。又、夏にはミニトマトを栽培した。テラスがあり、干し柿を吊るしたりしている。調査訪問時、廊下からテラスにつながる一角のスペースに、7段飾りのひな人形を飾ってあった。冬場はこたつを置いている。電子ピアノもあり、時々、職員やご家族が弾いて、みんなで歌っている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム松風園

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

近松聡行

評価完了日

28年 3月 2日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) グループホーム松風園は利用者の自宅であるという簡潔な理念は職員に周知されており、外出や生活上の職員の判断はその理念に沿って行われている。 理念を実践するための具体的な方策については明確に文章化しておらず、評価の基準となる書類の整備はこれからである。開設1年としてはやや遅れていると認識している。 (外部評価) 理念をパンフレットに明示しており、管理者は職員に、「ここは利用者の自宅です」と話して、利用者一人ひとりの居場所作りの取り組みをすすめている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩時等の近所の方へのあいさつや、関連業者との良好な関係の維持に努めている。地域の方を招いた行事等は、開設前の見学会、開設後外部から10名程度の方がこられた交流行事は2回であるが、特別な行事でなく日常生活の中で交流できる方策を検討している。地域の方から野菜を頂く等の機会はあるが、これから清掃等の地域の行事にも参加できるように人員体制を整える。 (外部評価) 開設時には内覧会を行い、地元の方や同業者の見学があった。散歩によく出かけており、田畑で作業をする方や登下校中の子供達とあいさつを交わしている。近くの公民館の文化祭へ絵手紙教室に通っている利用者の作品が展示された際には、数名で見に行った。又、餅まきにも参加した。	近隣には、公民館や小学校、保育園等があり、幅広い年齢層の人達との交流ができる環境にあることを活かして、今後は地域のネットワーク作りをすすめてほしい。管理者は、「利用者と地域の人をつなげる支援をすすめたい」と話していた。又、自治会への加入等も検討していた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の人の理解や支援の方法を地域の人に向けて活かす機会は少ない。職員の研修機会を増やし、理念に沿った介護を充実させうえて、地域の人との職員、利用者との雑談等の機会が増えれば、特別な相談会という形式を取らずに地域貢献ができると考え、地域の人と日常生活の中で交流できる方策を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は1回開催したのみであり、運営推進会議を活かした取組みは不十分でありこれからである。次回は報告資料を整え論点を明確にし、1年を経過し再出発と言う形で運営推進委員の協力を受け、利用者及び地域の生活の質の向上に</p> <p>(外部評価) 第一回会議を昨年7月に開催して、グループホームの意義や会議の目的、役割等を説明した。会議には、民生委員、ご家族各1名、市の担当者や職員が参加している。27年度の会議開催は1回のみとなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市役所の担当者と不定期に接触する機会はあるが、運営推進会議が1回しか行われていない事もあり十分な連携はとれていない。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回、市内のグループホームが集まり、意見交換や勉強会を行っている。管理者は、他事業所でのケースを知る貴重な機会と捉えて積極的に参加している。知り合いになった他事業所の夏祭りに、利用者と出かけて楽しんだことがある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 指定基準における禁止の対象となる具体的な行為については職員に示している。引き続き研修を通して正しい理解に努める。</p> <p>(外部評価) 日中玄関は施錠していない。敷地の出入りが建物内においても音でわかるようになっており、利用者が玄関からひとりで出かけて行ってもすぐに追うことはせず、中から見守りして、様子をみなから付き添う等して支援している。3月には、事業所内で身体拘束や虐待防止についての勉強会を行う予定がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>高齢者虐待防止法そのものについて学ぶ機会はまだ設けていない。ほぼ毎日家族等外部からの訪問があり、夜勤帯以外複数の職員が介護に関わっていることから深刻な虐待は起きにくい環境にあるが、職員が互いに注意を払い、防止に努めている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修では取り上げている。現在後見制度を利用している利用者が1名いるが、現在新たに活用するよう支援すべき利用者はいない。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約の締結の際は文章を読みながら説明を行っている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者、職員が聞いた利用者や家族からの要望は随時利用者の生活に反映させ、利用者家族に報告している。ただしその記録は不十分と考えている。(介護日誌に記録している)</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪は多くあり、調査訪問日にも複数のご家族が来られた。管理者は玄関で出迎え、又、見送りしてご家族が話しやすいような雰囲気作りに心がけている。昨年10月には、講師を招きフラワーアレンジメント教室を行い、ご家族も誘い8名ほどの参加があった。来年度は、家族会の実施を検討していた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は随時運営に関する職員の意見や提案を聞いている。可能な提案はその都度運営に反映させている。ただし特別に聞く機会を設けたり、整理し記録する書類は整備していない。	
			(外部評価) 月1回、日中に勉強会を行っている。利用者が昼食をすませた後が、職員の昼食と休憩時間となっている。現在、管理者が全体を把握し、管理する体制をとっているが、職員で共有する必要がある事項は、介護日誌に記入して申し送っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は職員個人個人の気持ちに気を付け、支障がないよう気を付けている。不満要望等の表出があった場合はその場で対応し、生活に支障が無いよう気を付けている。	
			(外部評価) さらに、職員のチームワーク作りに向けて、みなで集まり話し合う機会や、又、職員のケア向上を目指して、個々に目標を持って取り組む仕組みを作ってはどうか。管理者は今後、外部研修への参加にも取り組みたいと話していた。職員は「認知症について勉強したい」と話していた。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修の機会は設けているが、余裕の少ないシフト上の要因もあり過去1年の外部研修の機会は少ない。2年目は受講可能な外部研修のスケジュールを職員に示し、職員の希望によって計画的に受講できるようにする予定である。	
			(外部評価) 今治市グループホーム交流会に参加している。他のグループホームの夏祭りに利用者と共に参加する機会があった。グループホーム交流会への参加は今後人数を増やす計画である。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 今治市グループホーム交流会に参加している。他のグループホームの夏祭りに利用者と共に参加する機会があった。グループホーム交流会への参加は今後人数を増やす計画である。	
			(外部評価) 今治市グループホーム交流会に参加している。他のグループホームの夏祭りに利用者と共に参加する機会があった。グループホーム交流会への参加は今後人数を増やす計画である。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 特にサービスの利用を開始する段階では、全職員が利用者の情報を共有し、入居日をずらす等し、集中して本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 特にサービスの利用を開始する段階では、全職員が利用者の情報を共有し、入居日をずらす等し、集中して本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人家族の生活の質の向上を図るにあたって、本人の不安と同様に家族の不安の軽減は重要と考えています。本人との関係づくりと同様に、家族との関係づくりに努めています。家族が来られた時は必ず挨拶をし、本人の様子を伝え、気軽に話ができる雰囲気をつくるよう努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 過去1年間に施設内で初期対応が困難であった例は無い。状況によって他のサービス利用を含めて柔軟に対応をしたい。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「いつも世話になって申し訳ない」と言われる利用者には、「みなさんが居られるから私たち(職員)もここで暮らせるんです」と話をしている。ある方は「ほなお互い様ゆうことですな」と言われる。そのような姿勢で業務を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の訪問、家族との散歩、外出など家族との関係は本人家族にとって必要な生活の一部であると考えている。利用者によって差はあるが、現状は家族の訪問が無い日はほとんどない。家族同士の関係も出来つつある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合い友人親戚の訪問があった時は、丁重に対応し、また気軽に訪問できる雰囲気をつくるよう心掛けている。近所に友人の居られる方は、本人の希望により訪問できるよう支援している。 (外部評価) 入居前から、公民館の絵手紙教室に通っている方は、自作の絵手紙を友人に出す際には、ポストまでご自分で投函に行く。その際には職員がそと後から見守り支援している。絵手紙教室には、今月から他の利用者も参加することになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員との関わりは重要であるがそれ以上に、利用者同士が関わり合う機会を重要視している。関わり合いを強制はしないが、自然に利用者の意志によって関わり合う機会を妨げないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了し、特別養護老人ホームに移られた方1名について、その後本人には会っていない。施設訪問時に職員に様子を聞く、ご家族にお会いした際に様子を聞く等は行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員との会話の機会を通し、改まって希望を聞くというよりは、普段の会話の中で意向を把握するよう努めている。グループホームは利用者の自宅であるという基準に従って対応している。 (外部評価) 入居時には、ご家族に「基本情報に関する項目」に沿って聞き取り記録している。居間のホワイトボードには、年間行事について利用者の希望を記入できるように用紙を貼っていた。職員の中には、「利用者、もう少しゆっくりお話する時間を作りたい」と話す方もあった。	管理者は今後、利用者個々に担当する職員を配置して、月ごとに交代し、全職員が、全利用者の生活歴等を知る取り組みを行いたいと考えていた。事業所は、「利用者の自宅」づくりを目指しており、個々のご自宅への思い等についても情報集めに工夫して支援に活かしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス開始時主に家族より聞き取りをし、職員間で情報を共有している。今後、本人家族より新たに聞いた情報を記録、整理し職員間で共有していく取り組みが必要と考えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 書類上は介護記録、介護経過により暮らしの現状を把握している。職員が気づいた事柄は小さなことでも他の職員に伝え、気になる点は介護日誌に記録してその場にはいない職員にも伝わるよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) フェイスシートと介護計画は当月分の介護記録と一緒にファイルし記録時に職員が常に参照できるようにしている。利用者によって差があるが本人と共に家族との会話の機会も多く、自然な会話の中で意見の把握に努めている。</p> <p>(外部評価) 計画作成担当者が中心となり、介護計画を作成しており、支援内容について毎日、○×でモニタリングして、3ヶ月ごとに計画を見直している。ご家族来訪時に担当者会議を行い、暮らしぶりや様子を伝えてケアへの要望や生活への希望を聞いて、計画に反映している。現在、居室で長時間を過ごす利用者の生活の工夫について考えており、リクライニング式の車いすを検討する等、居間でみなと過ごす時間を作りたいと話していた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子、ケアの記録は介護記録に行い、特に周知する必要があると考えられる内容は介護日誌に記録し職員間で情報を共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 現在は特に多機能化に取り組んではない。これから地域での役割の変化に対応していけるよう人的体制を整備した上で取り組みたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 徒歩で行ける市の住民センター(公民館)は絵手紙教室への参加など本人家族の希望に応じて活用している。盆暮れの挨拶などを行い住民センター職員と気軽に相談できる状況を保っている。公民館小学校保育所の行事(運動会など)を見に行く機会はあるが、公民館以外との交流は2年目の課題である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日常の健康管理は協力医療機関(同一法人)により行っているが、本人家族の希望により従来からのかかりつけ医を受診できるよう協力している。特にかかりつけ医との関係が深くない方は協力医療機関をかかりつけ医としていただいている。</p> <p>(外部評価) 母体病院の医師の往診があることに、利用者やご家族は安心を感じている。准看護師資格を有する職員2名が、服薬状況やバイタルサインを特に意識して見て、母体病院と連携をとっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 介護職員は日常の健康上の気づきをその都度看護職員あるいは直接協力医療機関の医師に伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 過去一年、白内障の手術による1日の入院以外に、入院は無い。入院が必要な場合に備えた病院関係者との関係づくりについては協力医療機関の医師に依存している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、現状では特に事前の話し合い等を持ってはいない。利用者の健康状態についてはその都度早めに家族等に報告相談し、必要に応じて個別に本人家族に希望に従った支援を行っているが、2年目は本人家族等と話し合う機会を持つ。</p> <p>(外部評価) 現在、ご家族や利用者や終末期や看取りについて話し合う機会を持っていないが、今後、折を見ながら個別に「最期まで看ることができる」ことを説明していきたいと考えている。事業所の持っている力や理念とも照らし合わせながら、支援のあり方をご家族と話し合ってもらいたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 協力医療機関の医師と24時間連絡を取りることができる体制にある。 急変や事故発生時に備えた緊急時マニュアルを掲示している。 夜間緊急時には管理者が即時出勤する体制を取っている。 応急手当や初期対応についての訓練は特に行っていないが今後実施する予定である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 提携介護老人福祉施設、介護老人保健施設と相互に緊急避難措置が取れるよう契約書を交わしています。 火災時、災害時の対応マニュアルは作成中で完成していない。 管理者は本年2/3、2/4に甲種防火管理講習を受講している。 (外部評価) 開設時に、防火設備業者から使用説明を受けたが、この一年間は避難訓練の実施に至っていない。又、備蓄も今後の取り組みとなっている。	災害はいつどのような時に起こるか分からないことでもあり、少なくとも、年2回の避難訓練実施に取り組むことが求められる。立地条件等を踏まえて、地域との協力体制作りについても運営推進会議等を活かして取り組んでほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応については互いに注意し合っている。話し言葉遣いについては、職員一人一人の個性と感覚を生かし、人間の手応えが感じられるよう、厳格な統一、規制はしない方針である。 (外部評価) 事業所は、利用者同士で協力し合って暮らせるような環境を目指している。調査訪問時には、テーブル席のお隣の方の世話をする方が見られた。人の姿が見えないと「どこに行ったの」と気にするような方には、「お部屋にいますよ」等と声をかけると、ご自分で他利用者のお部屋を訪ねて、一緒に過ごすようだ。居間でトランプ遊びを行う時には、利用者が他利用者を誘うような場面もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 気軽に話が出来る雰囲気、機会を持つよう、心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者は基本的に自由に過ごされている。ただし入浴については職員側のスケジュールによっておこなっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧をされる方は3名おられる。着る物などは自分で自由に選び着る方が4名、提案して了解をもらう方が2名、職員側で選ぶ方が2名、寝間着のまま過ごされる方が1名である。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳、下ごしらえ、片付けなどを手伝う方は3名居られるが義務のようにはおらず毎回ではない。自然な流れで手伝いをお願いできるときにお願いしている。職員と一緒に食事をする場合もあるが、利用者の食事が終わった後、同じメニューの食事をとっている。	
			(外部評価) 台所は、オープンキッチンになっており、玄関を開けると、食事を作るにおいがしていた。食事作り専門の職員を配置している。調査訪問日の昼食時には、職員が配膳し、個々のタイミングで食事を始め、食後は、下膳をする利用者が一名いた。職員は介助に徹しており、それぞれを回りながらスプーンにおかずを乗せる等して、利用者自身の力で食事を口に運べるよう手伝っていた。おいしい食事をさらに楽しめるような職員のかかわり方について、工夫できることはないか話し合ってみてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給には留意して介護記録に水分量を記録している。食べる量に注意してメニューなど食べやすいものを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力で口腔ケアをする方が4名、声掛けしただけの方は3名、介助してケアをする方が2名である。口の中に食べ物が残らないよう注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意便意がある方はトイレを使用している。普段おむつの方も尿意などを表されるときはトイレを使用している。	
			(外部評価) 食事前後にトイレ誘導していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜類の摂取と、運動のできる方は運動(散歩等)をされるよう注意している。必要な方はマグミット、センノサイド、を加減して使用している。排便間隔に注意し必要時に浣腸、摘便を施工している。利用者から浣腸を希望される場合もある。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴については職員で曜日や時間を決めている。人員体制の充実を図った上で一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう検討したいが現状ではそれはできていない。	
			(外部評価) 一人ひとりお湯を入れ替えて入浴を支援しており、入浴剤を入れたり、入浴準備からかわり、じっくり時間をかけて急がさないように支援している。現在は、利用者個々に曜日を決めて支援しており、利用者の中には入浴日でない日に「入りたい」と希望したり、就寝前に「ここはお風呂はないのか」と聞いたりする方がいるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 食後など本人が休みたい場合はそれを妨げる事はしていない。 安眠できるよう寝具、部屋の温度に留意し、背中や腰の痛みを湿布、体位などで軽減できるよう注意している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	服薬支援については、協力医療機関の医師とも常に相談し看護職員を中心に服薬支援を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	可能な利用者には洗い物、洗濯物をたたむ、配膳、調理の一部、掃除、草花の手入れ、野菜の取り入れなどの役割を状況に応じて依頼している。また散歩により気分転換の支援をしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	季節天候にもよるが、徒歩で外出したいという希望を妨げない方針で支援している。黙って自分で外出される方も出来るだけ見守り、付き添いで対応している。夜間以外は玄関を施錠しない。
			(外部評価)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	財布を持つ希望のある方は、家族と相談の上居室に持っていていただいている。日常の買い物の希望については本人家族の了解を得たうえで現金を預かるか、事業所が立て替えて対応している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	携帯を持つ方は自由に電話をしている。電話をしたい希望がある方には、希望に応じて事業所の電話を使っている。手紙のやり取りをされる方は1名だけだが、近くのポストに自分で葉書を出しておられる。切手などの希望があった場合は要望に応じて購入している。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 掃除や障害物、温度管理などには注意を払っている。クリスマス、年始、ひなまつり等の飾りや季節の花で季節感を取り入れるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 隣接する畑の方が、利用者が楽しめるようにコスモスを育ててくれている。又、小学校のグラウンドや保育園の園庭が良く見えて、子ども達の姿や声が日常的に感じられる。職員は、そうじに時間をかけており、清潔に保てるよう心がけている。玄関周りには少し高めの花壇があり、いちごやパンジーを植えていた。又、夏にはミニトマトを栽培した。テラスがあり、干し柿を吊るしたりしている。調査訪問時、廊下からテラスにつながる一角のスペースに、7段飾りのひな人形を飾ってあった。冬場はこたつを置いている。電子ピアノもあり、時々、職員やご家族が弾いて、みなで歌を歌っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ウッドデッキ前ロビーで自由に過ごせるように配慮している。椅子の数、配置などに工夫が必要であり、今後検討する予定である。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室内は本人家族が自由に家具等を配置できる。火の気のある物は置かないようお願いしている。</p> <p>(外部評価) 県外のご家族が泊まる際には、事業所で、布団や食事等を用意している。各ベッドにコールを設置しており、必要時に利用者が押して職員を呼べるようになっている。クローゼットの中に衣服を整理する方や、ポールハンガーにかけて見えるようにしている方もあった。冷蔵庫を置いている方が複数あり、ご家族の方が利用者のお好きな飲み物を補充している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレなどの手すりを増設し、歩行の不安定な方には室内用シルバーカーの必要に応じて自室の名札、目印、トイレの表示を工夫している。</p>	